



平成 29 年 6 月 21 日

東北大学大学院医学系研究科

妊婦の医薬品・サプリメント使用実態を調査

- 12 週以降に使用した妊婦の割合は、68.8% -

【発表のポイント】

- 妊婦の薬使用についての情報が少ない現状を踏まえ、全国約 10 万人の妊婦を対象とし、その実態調査をおこなった。
- 調査において、妊娠前・妊娠中の半数以上の妊婦が、医薬品・サプリメントを使用していることが判明した。
- 今後、妊娠中の医薬品・サプリメント使用が新生児にもたらす影響について、研究が進むことが期待される。

【概要】

東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センターの小原 拓（おばら たく）准教授（薬学）と西郡 秀和（にしごおり ひでかず）准教授（産科学）らのグループは、日本全国の約 10 万人の妊婦を対象とし、妊婦における薬使用の実態を調査しました。

これにより妊娠前・妊娠中の半数以上が医薬品・サプリメントを使用していることが明らかとなりました。

本研究は、コアセンター（国立環境研究所）、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）、ユニットセンター（大学等、全国 15 カ所）との協働により環境省が実施しています。また、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の支援を受けて行われました。

本研究成果は、2017 年 4 月 10 日 Pharmacy 誌（電子版）に掲載されました。

【研究内容】

今日、妊娠中の医薬品・サプリメント使用の実態およびその安全性に関する情報は非常に少なく、特に、日本においては、評価基盤が存在しなかったために、海外のエビデンスやデータに頼らざるを得ない状況です。

このたび、東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センターの小原拓准教授（薬学）と西郡秀和准教授（産科学）らのグループは、環境省「環境と子どもの健康に関する全国調査（エコチル調査^{注*}）」に参加した妊婦 97,464 人における妊娠前・妊娠中の医薬品・サプリメント使用の実態を調査しました（図 1）。

妊娠前 1 年間では 78.4%、妊娠判明後から妊娠 12 週までの間では 57.1%、妊娠 12 週以降に医薬品・サプリメントを使用した妊婦の割合は、68.8%でした。

医薬品・サプリメントの内容として、妊娠前 1 年間では、「市販されている解熱・鎮痛・感冒薬」の使用が最も多く（34.7%）、次いで「病院で処方された解熱・鎮痛・感冒薬」（29.8%）、「全ての抗菌薬」（14.0%）の順に多いという結果でした。

妊娠判明後から妊娠 12 週までの間では、「葉酸サプリメント」の使用が最も多く（28.9%）、次いで「病院で処方された解熱・鎮痛・感冒薬」（7.8%）、漢方薬（6.0%）の順に多いという結果でした。

妊娠 12 週以降では、「葉酸サプリメント」の使用が最も多い（26.2%）。次いで「子宮弛緩薬」（15.2%）、「病院で処方された解熱・鎮痛・感冒薬」（13.3%）の順に多いという結果でした。

医薬品・サプリメントを使用した妊婦の割合

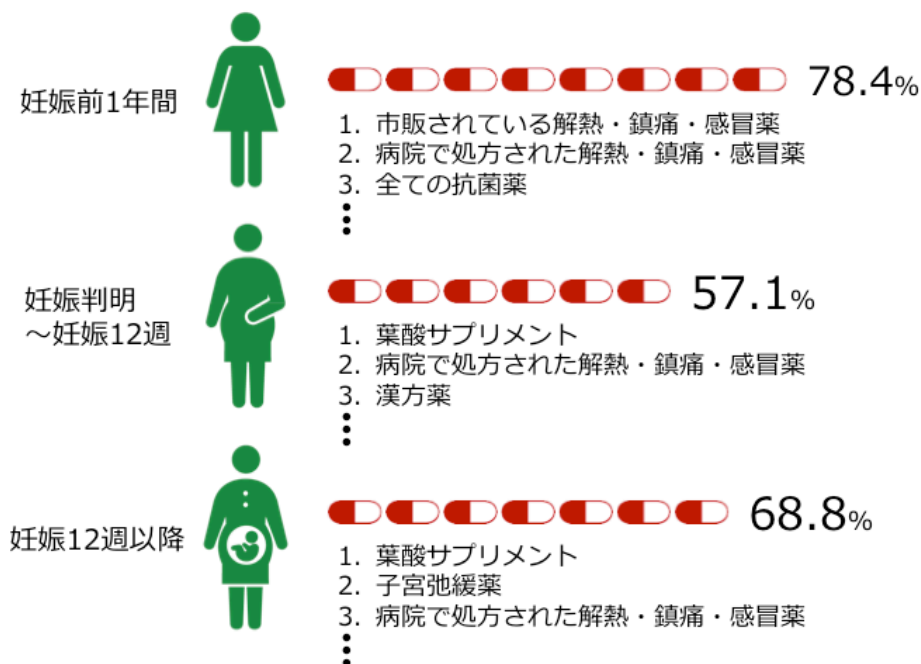


図 1. 医薬品・サプリメントを使用した妊婦の割合と内訳

本研究によって、多くの妊婦が妊娠中に医薬品・サプリメントを使用していることが明らかとなりました。今後、妊娠中の医薬品・サプリメント使用の安全性の評価が行われることが期待されます。

【用語説明】

注* エコチル調査：

コアセンター（国立環境研究所）、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）、ユニットセンター（大学等、全国15カ所）との協働により環境省が実施している。2011年から開始され、平成23年～平成25年にかけて、約10万人の妊婦をリクルートし、出生児が13歳になるまで追跡を行う。

【論文題目】

Title: Drug Use before and during Pregnancy in Japan: The Japan Environment and Children's Study

Authors: Hidekazu Nishigori, Taku Obara, Toshie Nishigori, Hirohito Metoki, Mami Ishikuro, Satoshi Mizuno, Kasumi Sakurai, Nozomi Tatsuta, Ichiko Nishijima, Ikuma Fujiwara, Takahiro Arima, Kunihiko Nakai, Nariyasu Mano, Shinichi Kuriyama, Nobuo Yaegashi and Japan Environment & Children's Study Group

Journal: Pharmacy 2017, 5, 21; doi:10.3390/pharmacy5020021

日本語タイトル：「日本人妊婦の医薬品・サプリメント使用：エコチル調査」

著者名：

西郡秀和、小原拓、西郡俊絵、目時弘仁、石黒真美、水野聖士、櫻井香澄、龍田希、西島維知子、藤原幾磨、有馬隆博、仲井邦彦、眞野成康、栗山進一、八重樫伸生、エコチル調査グループ

掲載誌：Pharmacy 2017, 5, 21; doi:10.3390/pharmacy5020021

【お問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院医学系研究科
環境遺伝医学総合研究センター
准教授 小原 拓（おばら たく）

電話番号：022-717-7577

Eメール：obara-t@hosp.tohoku.ac.jp

（報道に関すること）

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室
講師 稲田 仁（いなだ ひとし）

電話番号：022-717-7891

FAX 番号：022-717-8187

Eメール：pr-office@med.tohoku.ac.jp